

平成30年度 第1回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成30年10月12日（金）午後2時～3時40分

場 所： コミュニティセンター 203・204

【参加者】 岩崎れい、平井富久子、山崎周子、西木由紀、辻中伸弘、城野聖一
（欠席）大谷裕美子、藤原康成、中島裕幸、西中佳代美、松山裕美

【事務局】 西野貴子、平澤佐千代、錦好見、中谷知子、入井知子、廣松典子、西さおり、
田中渉（以上図書館）

1 開会

2 案件

（1）平成30年度事業計画（案）について

- ・昨年度は、市内初の小中一貫校「生駒北小中学校」を視察。小学生と中学生と一緒に図書館を使うためにどのような工夫がされているか、開館までの流れと図書館の活動について学校司書からの説明を受け、図書館を見学。
- ・今年度は、子どもたちの読書や読書環境の実態を知るためのアンケートを実施。
- ・来年度は、アンケートを検証し、課題把握、目標設定を行う。
- ・平成31年度で生駒市子ども読書活動連絡調整会議を解散、平成32年度から、学校や行政、地域、民間事業者等、各分野で子どもと読書に携わっているメンバーで新しい組織を立ち上げ、課題解決に向けた实际的、かつ実行力のある活動を行っていきけるようにしたい。

（2）子ども読書活動推進に関するアンケートについて

生駒市子ども読書活動推進計画が来年度15年の節目を迎えるにあたり、アンケートを実施する。（1月に実施、今年度中の集計を予定）

◎アンケートの目的

- 1、子どもの読書実態を知る
- 2、子どもに携わる人の意識調査
- 3、子ども読書活動推進計画において、地域、家庭、学校の連携が出来ているか
上記3点に絞ってアンケートのたたき台を作成

◎アンケート等についての感想・意見

- ・生徒児童へのアンケートで回答者に性別は聞かないのか？男女で読書の傾向は違うと思うので、それを聞きたい。

- ⇒・実際には読書の男女差はあると思うが、それを聞いて何かをするアンケートかどうか？それによって聞くか聞かないかも変わってくる。
 - ・支障がなければ、聞いたらよい。中学校では実際にどうしているかを調べる。
- ・アンケートは市内の小中学生全員（約1万人）に配るのか？保護者も合わせると2万人になる。配布先を絞るのか？必要数はどのくらいか？
 - ⇒全員に取るのは処理能力的に無理がある。それぞれの学校に個性があり、図書館と学校の距離でも条件が変わってくるので、学校を絞るのは難しい。全小学校の2年生と5年生、中学校の2年生と対象児の保護者に取りたいと考えている。公立幼稚園、保育園の4歳児と対象児の保護者にも取りたい。行政機関や民間団体にも取りたいと考えている。
- ・保護者へのアンケートは対象児童生徒の保護者にするということだが、誰が答えたかは特定しない方がよい。学校ごとのサポートに活かせばよい。
- ・図書館や文庫を利用する子どもが減っているという話があった。子どもや保護者に本に接点を持ってもらうのも大事だと思うが、学校図書館のコレクションの充実はどうか？行っても読みたい本がないということと言われることもあると思うが、蔵書率はどうか？
 - ⇒蔵書率は年に1回調査している。どんな本を購入するかは、図書館担当教員と学校司書で相談している。子どもたちが読みたい本を考えて購入してくれていると思う。
- ・アンケートで学級文庫のことを聞いているが、学級文庫は活発なのか？子どもが持ち寄っているところやリサイクル本を置いているところなど色々ある。生駒の現状は？
 - ⇒統一してやっているわけではない。学校図書館で古くなったものや収まりきらなくなったものなどが学級文庫へと割り振られている。学校図書館ほど本の入れ替えや新しい本が入っているというのではないと思う。
 - ⇒図書館に行かない子ども、学校文庫なら手に取りやすい。学校の先生向けに学級文庫はありますかと聞いているが、この項目をもう少し掘り下げて聞いてみてもよいのではないか。
- ・アンケートについて、学校の先生や学校司書など大人を対象にしているものは、最後に自由記述欄を設けたらよいのではないか。
- ・発達段階で、本の読み方は変わってくる。小学校は多読の時期。中学生の終わりから高校生になると哲学書に手を出す子も出て来る。じっくり読んでいるのを冊数が少ないと言ってしまってもよいのか。生まれてから小学校卒業くらいまでが大人の影響が大きいので、その間に本に親しめる環境を整えてやるとよいという話もある。子どもの成長段階でのサポートをイメージの中でとらえていくとよい。

- 全国的に学校司書の役割を問われるようになってきた。図書館をきれいにすることから始まり、学校司書が読書サポートできるようになり、先生の授業の支援をどうしていくかということが求められるようになってきた。また、今後、学校司書にどのような仕事をして欲しいかというのも課題。
- アンケートに高校生が入っているが、必要か？
⇒中高生は読む子と本当に読まない子とに二極化している。高校生をどうするかというよりは、幼少期にどうするか。国の計画にも、高校生は入っている。
- 幼稚園の蔵書は何冊くらいですか？という項目がある。概数でよいのか？
⇒園では、本をリズム室や教室に少しずつ置いていると聞く。1から数えてもらうのではなく、大体の冊数を教えてもらえばいい。
- 最近読んだ面白い本を聞いている項目があるが、web小説や漫画は読書に含むかどうか。どういうものを本とするかを書いておいた方がよい。

(3) その他

図書館・図書室から今年度の児童サービスを中心とした事業の紹介